

日本地理小誌

秋山四郎 那珂通世 同編 上

特31

475

022989-001-7

特31-475

日本地理小誌

那珂通世

秋山四郎 / 編

上

M24

ADB-0933



文部省檢定濟

那珂通世
秋山四郎
同編

卷上

日本地理小誌

東京書肆
中央堂發行

日本地理小誌例言

一 此書を小學校の生徒に日本地理を授くる教科書に充用せん
のため編輯せり。

一 此書を依りて日本地理を授くるに、此書を用ふる前、學校近

傍の地形、其郷土郡市等を教へ管内地理の概畧を領解せしむべし。

一 郷土の地形を地理學教授上最良の標本としむべし。田間の溝澮

を滔々たる江河を表せ、路傍の丘阜を峩々たる山嶽を表せ

べく、池沼を湖海を表し、園樹を山林を表せ。教師たる者は是

等の實物に就き兒童の觀察力を養ひ、地理學上の事物に親接せ

しむる時を、遠隔なる物體とて、これを想像して確實に理會せ

しむることを得べし。故に郷土の地理を、兒童に目前有用の智

識を得しむるのみあらざ、又一般の地理を教ふるに缺くべから

ざる準備あり。

一 既に郷土の地理を學びて、此書より移れる時、書中の事物を成るべく児童の既に目撃實驗せし事物と比較結合して、充分に理會し、確實に記憶し、終身己れの有とあきしむべし。

一 地圖も、地理を學ぶに須臾も缺くべからざるものあり。故に児童をして絶えず本文と地圖とを對照せしむべし。又土地の實況を示せしむる寫真を用ひ、産物を教ふるも、實物を示し、都會山川等の位置面勢を確實に記憶せしめんも、児童をして自ら地圖を画しむる等の手段あるべし。

一 地理を教ふるも、其國其地方の狀況を知るに足るべき重大なる事項のみを以てし、瑣小の事を省略せざるをよしとす。若し瑣小の事を臚列して一々諳記せしむる時も、當に益あきのみあら

ば、徒に児童の精神を疲らし、其發達を妨げ、其害勝て言ふべからば、故に此書を務めて重大にして緊要なる事項のみを撰み、不急の箇所を痛く省略せり。但、所により或は瑣小の事ありとも掲げたることあるも、他の重大なる關係を表さんかためあれど、其前後を参照して、其關係を領解せしむべし。

一 世間刊行の地理書を見るに、文章も平易にして通解しやまきを旨とせりといふものも、其實奇字難句多くして、児童よを容易く解しがしし。況や此等の注意あきものに至りても、殆ど漢文直譯に異あらば、されど児童も一方に向ひても、字義文理の解釋は苦し、一方に向ひても、其事實を識得するに難み、殆ど其勞は勝るべし。此書を是等の弊を存せんことを恐れ、文字も普通の漢字の外も、成るべく仮名を用ひ、奇字難句を排除し、行文も平易にして言文

一致に近うらんことを期せり。

一 此書に載せらるる事項中全體の割合に比し、産物の種類を多くし、其説明を詳しせらるる児童博物の助とあすのみならず、地方生産の状況を窺ひ知り、漸次よ心を興業殖産の道に傾けしめんことを欲せられむあり。

一 總論は産物輸出入品を列擧せしめ、始めより悉皆諳記せしめんためよあらば、只其重大ある品類を概括し、其大概を示し、そのみ故よ其詳あるを教ふるも、畿内八道の條下よ於てせべし。

一 諸道のかち國の順序等も、いよいよ帝都の畿内よありしとき、定めらるるものあれば、東海東山南海の三道および越前越後の名稱のごときも、今の東京より見る時も、其名實相違せり。又西海道の西の海を東海と記したるも、支那の稱呼よ由らるるものよして、

本邦よて名づけたるよあらば、此等の意義を、教師たる者よく説明せべし。

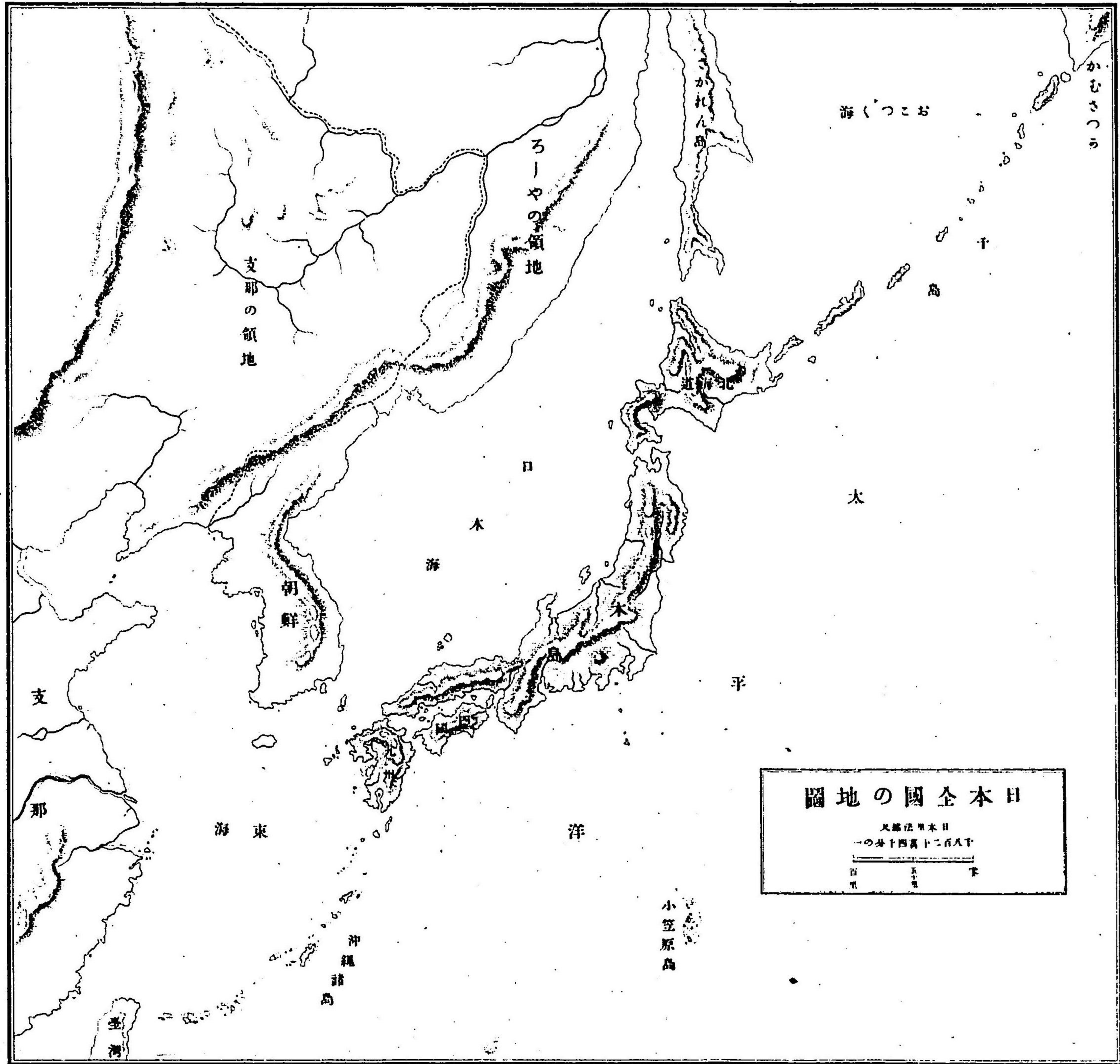
一 書中重要な地よ其里数を掲げたるも、單よ其地の距離を知らしむるのみよあらば、其距離を標準とあし他の地の遠近をも推測せしめんためあり。又地圖よ附載せらる縮尺も、生徒をして自ら地圖よ就き、川の長短國の廣狹等を度らしめんためあり。教師たる者、是等の諸法よより、生徒よ距離の觀念を得しむることを務めよ。

一 海上の距離も、海哩を用ふるを以て一般の定則とす。然れども、海陸里法を異し、これを児童をして距離の觀念を得しむること甚困難あり。故よ仮よ陸里よ改算せり。児童既よ距離の觀念を得たる上も、他日又海哩を學ぶの機會あるべし。

一地理を教授する際兒童好奇の性を利用し其心を快樂を生ぜしむれむ、大に進歩を助くる効あり。書中記載する越後の火井沖繩の飯匙倩等の談をこの用は適をべし。其外機は臨み類は觸れ、是等類たる事を口授をべし。但、荒誕無稽の談を深く忌むべし。

明治二十四年四月

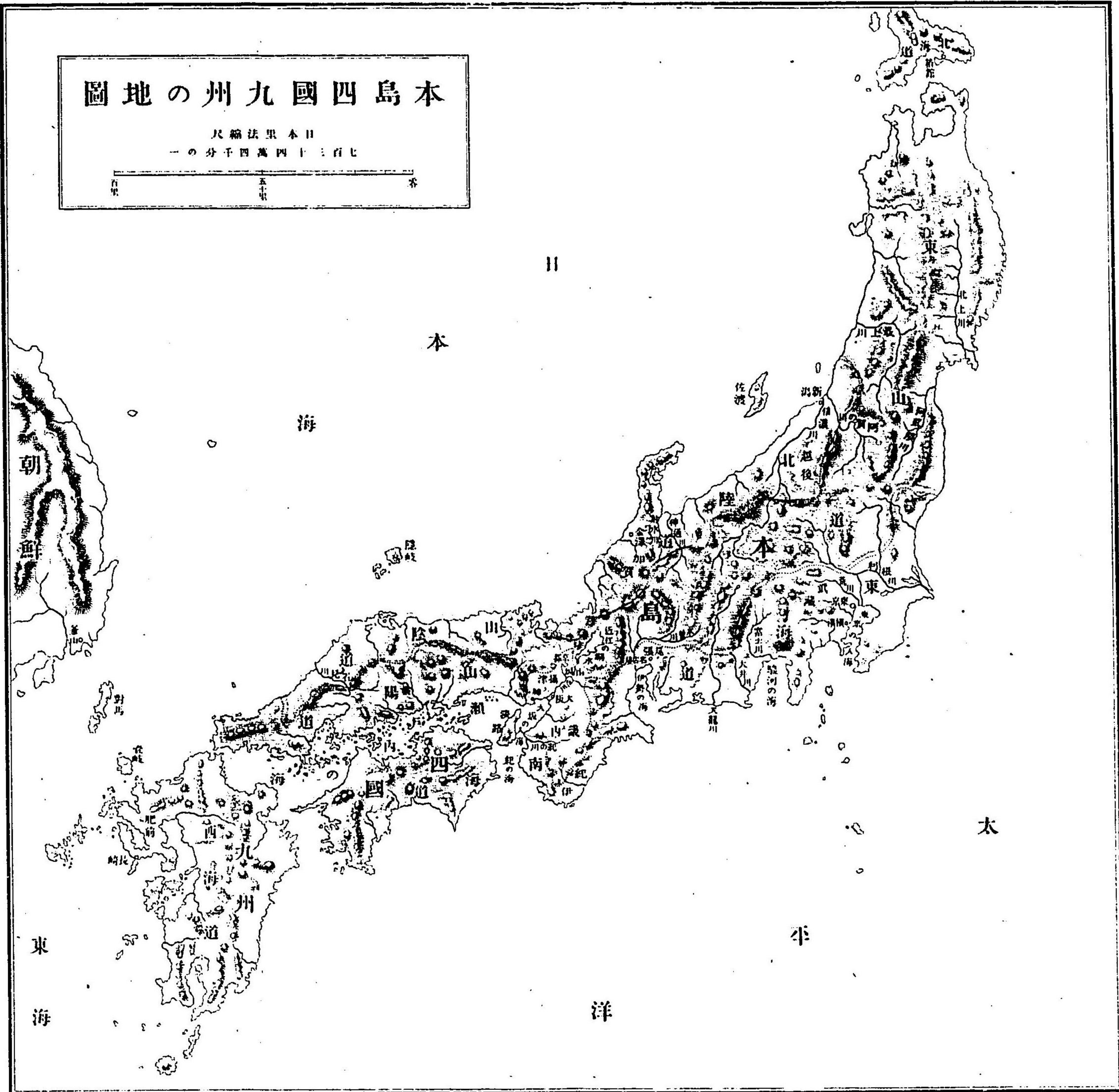
編者誌



昭和十一年四月一日現在

本島四國九州の地圖

日本里法縮尺
七百里四萬四千一



日本地理小誌卷の上

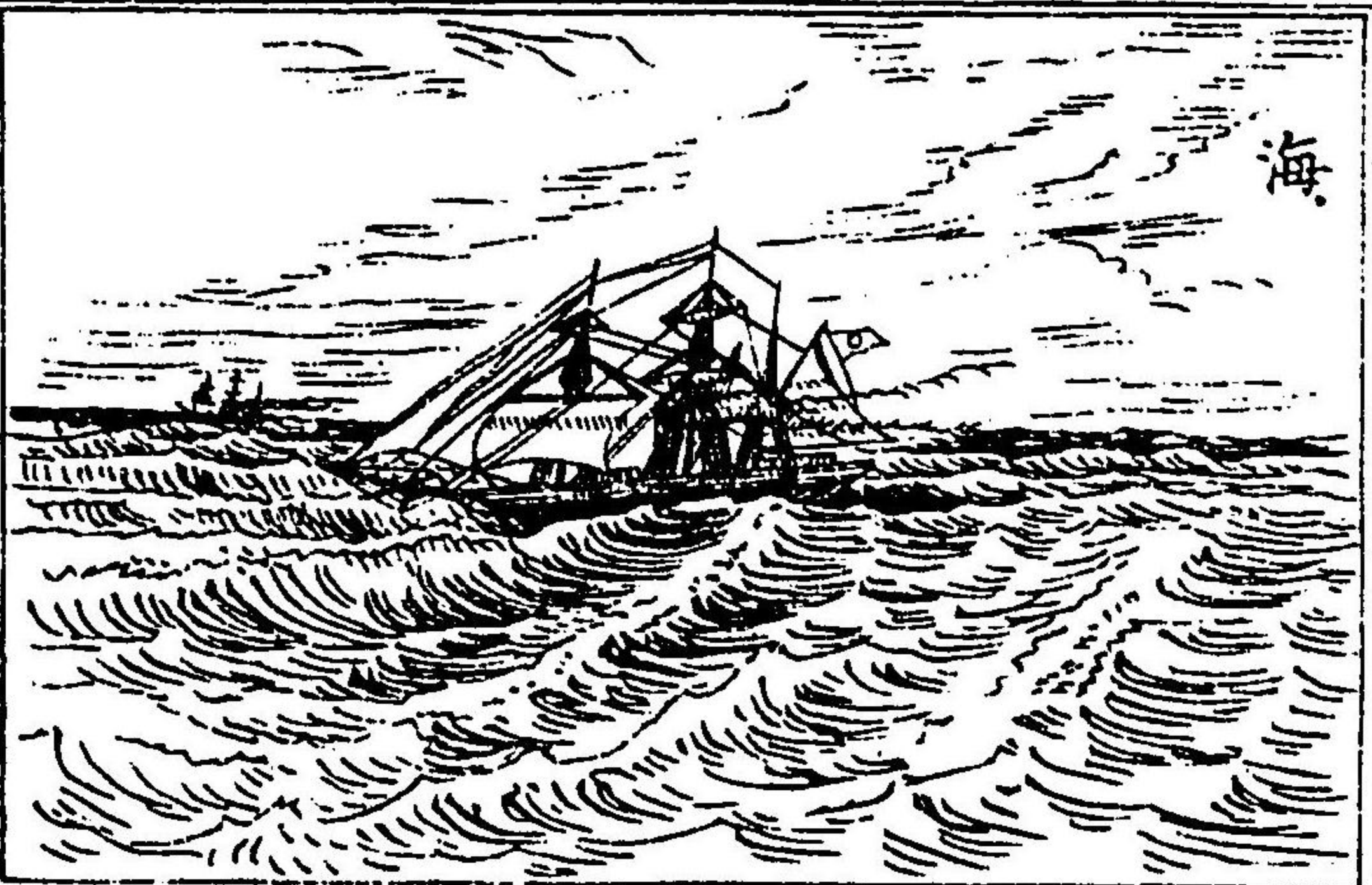
那珂通世
秋山四郎

同編

總論

われらのすまひまろる日本國を、大海の中よあり。
四つの大なる島とあまゝの小さき島とあつまり
て國をあり、北東の方より西南の方へありめよ
つらあきり。

北の海をおこつく海といひ、西北の海を日本海
といひ、西の海を東海といふ。これらの海をへ



海
 だて、北をろーやの領地よむ
 ろひ、西を朝鮮、支那の二の國よ
 とありせり。東と南とよひろ
 がまろる海を、太平洋とて世界よ
 て最大ある海あり。
 四つの大ある島の中、あるほど
 よありて、最大ある島も、日本の
 本島あり。本島の南よ、大ある
 入海四つあり。その中、東よあるを東京の入海
 といひ、中ある二つを駿河の海、伊勢の海といひ

西あるを大坂の入海といふ。又大坂の入海の
 南、太平洋よいでんとする所を紀の海といふ。
 本島の西南よある二つの大ある島を四國、九州
 といふ。四國、九州と本島との間よある大ある
 入海を瀬戸内の海といふ。
 本島の北のちより西南の方へ、大ある山脈長
 くつらあれり。この山脈、本島の中ほどの最せ
 まき所よいさりて、二つよわれ、一つを南よお
 もむき、一つを西のちよまでつらあまきり。
 この山脈より、あまこの川々流れいづ。その南

東の川も、太平洋に流れいり、西北の川も、日本海に
いり、西南の川も、瀬戸内の海、大坂の入海、又も
紀の海にいり。太平洋に流る川の、大なるもの
も、北上川、阿武隈川、利根川、荒川、富士川、大井川、天
龍川、木曾川あり。日本海に流る川の、大なるもの
も、最上川、阿賀の川、信濃川、神通川、射水川、石見
川あり。山脈のわかれたる所も、近江の湖水と
いふ大なる湖あり。この湖より流れいづる川
も、淀川とありて、大坂の入海に流る。淀川の南
ある紀の川も、紀の海に流る。瀬戸内の海に流る

る川も、甚大なるものあり。
國の長さも、本島の北の端より九州の南の端
まで、さうわたる九百八十里、北東の最
一の島より西南の最一の島まで、九千里餘
あり。國の幅も、本島の最ひろき所まで、九七
十里、せまき所も、二十四五里にすぎず。本島の
ひろさも、一萬四千五百七十一方里、全國のひろ
さも、二萬四千七百九十四方里あり。全國の人
の數も、九千四萬人餘あり。

總論のつぎ

國中氣候ほどよく、雨ゆたうよして、土地をいづれの所も大ていよくこえ、草木志げり、穀物よくみのる。又、四方皆海あるが故に、船の往來きえめて便利あり。

色々の産物の中、農産物を第一とせ。穀物よも、米、麥、豆類、粟、そばあど多し。この中、米と麥とを、人民の常の食物よして、本島、四國、九州よてを、いづれの地よても多くつくり、年々の出來高、米を九四千万石、麥を九千五百万石あり。桑、茶、楮、漆

を四木といひ、綿、藍、麻を三草といふ。わが國よも、三草四木よあへる土地多く、穀物よもおとらざる産物あり。その外、菜種、たむ、野菜、果材、木、竹、きのこあど、いづれもおもある農産物あり。又、水産物のおもあるものを、鰯、鯉、にしん、鮭、鯛、がれひ、するめ、鮑、あまこ、昆布、寒天、礦物のおもあるものも、金、銀、銅、鐵、石炭、家畜のおもあるものを、馬、牛、鶏あり。

又、製造物の最盛あるものも、生絲類よして、年々凡百万貫目ほどをつくりいだす。そのつぎを

織物よりして、絹、縮緬、木綿、麻などの種類あり。その外、製造物のおもなるものも、酒、醬油、砂糖、塩紙、蠟、樟腦、種紙、瀬戸物、塗物、銅細工等あり。

右の中よて、外國へ多く賣り出せる品も、生絲類を第一とし、これよつぐものも、茶、石炭、銅、米、樟腦、すゐめ、昆布、瀬戸物、塗物、種紙、きのこ、蠟、寒天、干鮑、いりこ等あり。又外國より多く買ひ入るる品も、唐絲、砂糖、金巾類、唐縮緬、石炭油、諸器械、鐵藥、毛繻子、綿びろうど、皮類、漆くさ、西洋酒等あり。

土地のとあへ方を、村又を村町をいくつもあつめて、郡といひあるひも、町をいくつもあつめて、市といひ、郡又を郡市をいくつもあつめて、國といふ。國の數を八十五ありて、これを畿内と東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、西海、北海の八道とにわけてり。

畿内と東海、東山、北陸、山陰、山陽の五道とを、本島の中よあり。佐渡が島も、北陸道よ屬し、隱岐の島も、山陰道よ屬す。四國よ淡路島と、本島の南のそしある紀伊の國とをあわせて、南海道といふ。九州よ壹岐、對馬と沖繩諸島とをあわせて、

西海道といふ。畿内も七道の中ほどにあり。東海、東山、北陸の三道も畿内の北東にあり。故にこれを東北三道といひ、山陰、山陽、南海、西海の四道もその西南にあり。故にこれを西南四道といふ。本島の北にあり大なる島と、その北東につらあるあまの島々とをあわせて、北海道といふ。

八十五の國の中、北海道の十一の國も、北海道廳にて支配を。あとの七十四の國も、府三つと縣四十三とにわちて、支配を。府を支配する役

所を府廳といひ、縣を支配する役所を縣廳といひ、日本全國を支配する役所を大政府といふ。大政府も、東海道なる武藏の東京にあり。東京と畿内なる山城の京都と攝津の大坂とを、日本にて、最繁華ある都會にして、これを三都といふ。三つの府廳もこの三都にあり。

東京の入海のほとり、横濱の港あり、大坂の入海のほとり、神戸の港あり。とも、大都會にちあぐして、繁華ある港あり。又、西海道も、東海もむらひて、肥前の長崎あり、北陸道も、日本

海よのぞみて、越後の新潟あり、北海道よも、日本海と太平洋と通ずる瀬戸よのぞみて、箱館の港あり。この五の所を外國人と交易する港よして、これを五港といふ。五港の地を、いづれよも外國の人民居留し、商船の出入志をくありて、交易日々よ盛あり。



三都五港の外、東海道ある尾張の名古屋、北陸道ある加賀の金澤のごときを、人民の數甚多く、もと大なる大名のすまひし城下よして、今もその城のあとのこれり。

畿内の地図

日本里法縮尺
百七十八千分の一



畿内の位置

印刷局合同印刷部第一四〇号印刷

畿内

畿内を、北、東、南の三方も、山つゞきあれども、西を大坂の入海よのぞみ、淀川、大和川その中をつらぬき、平ある土地ひろくして、田畑つらあり、米多く産を。

畿内を、わづらよ五の國よして、八道のいづれよりもせまけれども、土地よくひらけたる故よ、せまきわりあひよも人民多し。

この地方も、古より帝王の都のありし所よして、名所古跡甚多し。ことよ、京都を、桓武天皇の御



禁裏御所

時より明治元年まで千餘年の間、世々の天子の宮居したまひし所よして、今よ禁裏御所、仙洞御所、御代々の陵あり。人の數二十八万人餘ありて、上京、下京の二區よわ

るれ、市中を道路正しく、ごむんの目のごとし。

京都のうちそとよも、賀茂、八坂の社、北野の天神、金閣寺、知恩院、清水の観音、本願寺あどいふ名高き宮寺多し。又、賀茂川、桂川、東山、比叡山あど山

水の風景よく、高雄のもみぢ、嵐山の櫻あどの名所あり。

京都を、織物の盛ある所よし、縞子博多紋織木綿縮緬羽二重あどを多く織出し、すべて西陣織と稱して世よもてをやさる。その外友禪漆清水焼銅鐵の器物打紐などの製造物あり。又山城の宇治を、よき茶を産む。土地がらの茶よよろしきのみあらず、その製一方のたくみあることを、他の地方の師として習ふ所あり。大和の奈良も、いよしへ都のありし所よし、古

跡多く、大佛殿春日の社を、ともよ名高し。その外大和よを、古の都の跡、御代々の陵あど甚多し。吉野山を、櫻の名所よし、て、むる



し南朝の行宮のありし地あり。

河内の金剛山の千早を、むるし楠正成公がたてこもりて、北條の大軍を防ぎし所あり。大和、河内の二の國を、盛よ綿をつくり、木綿をお

り出し、河内木綿、大和がすりの名あり。

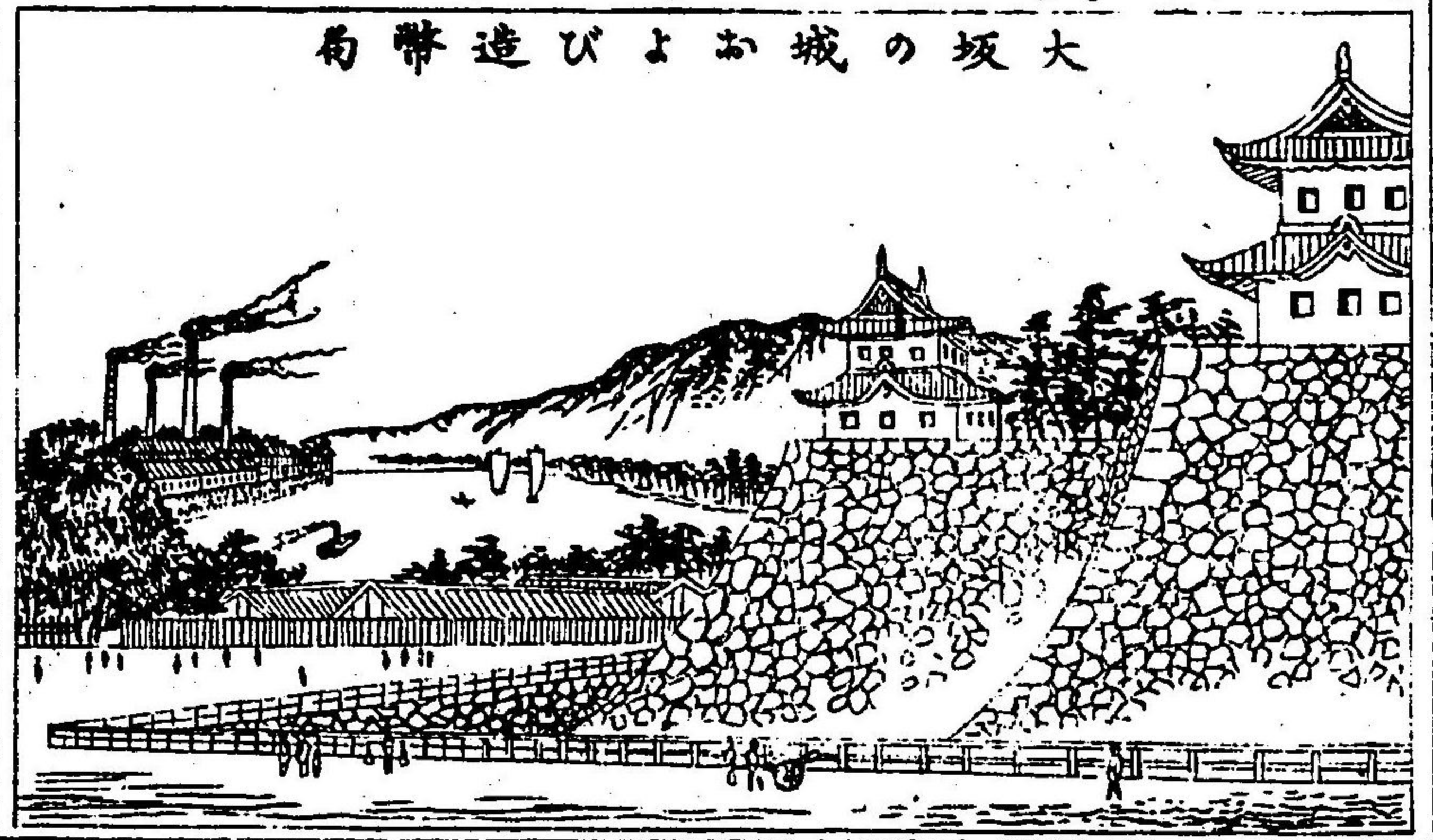


大坂を、京都の西南凡十一里、淀川のおち口よりあり。多くのえぶ川、堀わ

りたてよこし流れ通り、これよりけわたせる橋甚多く、その下よこし小舟の往來たえずして、市中より荷物を運送す。又大阪よこし、鐵道の便利多く、梅田の停車場より、東を京都をへて、東京よ通じ、西を神戸をへて、備前の岡山よ通じ、そのほか難波より、和泉の堺まで通じ、湊町より、奈良

まで通す。故よ、水も陸も運送の便利よく、大なる商人軒をあらべて、店をひらき、商賣の盛あるを、東京よもまさきり。人の數四十七万人餘あり。て、西、東、北、南の四區よわある。大坂の城を、むあし、太閤秀吉公のきづきたるものよして、けんどある城あり。陸軍第四師團の兵營この中よあり。城の

大坂の城よおび造り



北よ造幣局あり。われらのつねよ用ふる金錢をつくる所よして、工業甚盛あり。

神戸も、大坂の西八里餘の所よあり。横濱と長崎との中ほどよある港よして、西より來る船も、東より來る船も、皆たちよらざるあく、船の出入をゆるることあり。神戸も、西南の町つゞきある兵庫をあてせて一市をあく、人の數十万人餘あり。

兵庫の湊川のほとりよ楠正成公が足利の兵とたたるひ、打死せし所あり。その所よ、いま湊川神

社として正成をまつれる社あり。

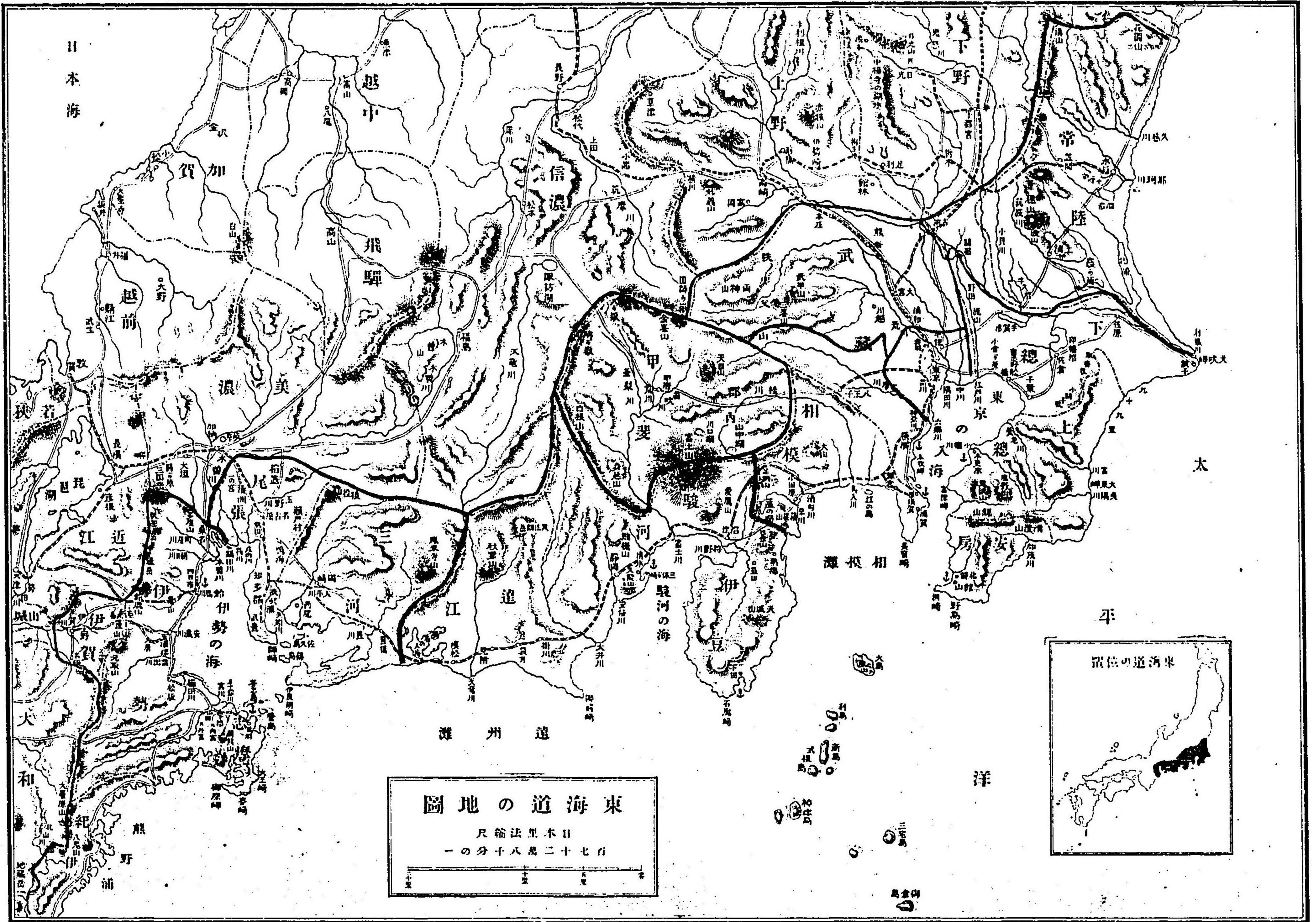
湊川の西ある一の谷も、源の義經が平家の兵をうちやぶりし古戰場あり。

神戸の北よあされる山あるよ、有馬の温泉あり。ふるくよりひらけて、名高き温泉あり。

攝津も、よき酒の産まる所よして、池田、伊丹、西の宮あどよを酒をつくる家多く、東京その外諸國よ賣り出を高おびたす。

畿内よ、二つの府廳と二つの縣廳とあり。京都府も、山城と丹波の五郡と丹後とを支配し、大坂

府を攝津の東あるを河内、和泉とを支配し、奈良縣廳を、奈良よりありて、大和を支配し、兵庫縣廳を神戸よりありて、攝津の西あるを丹波の二郡と但馬、播磨、淡路とを支配す。



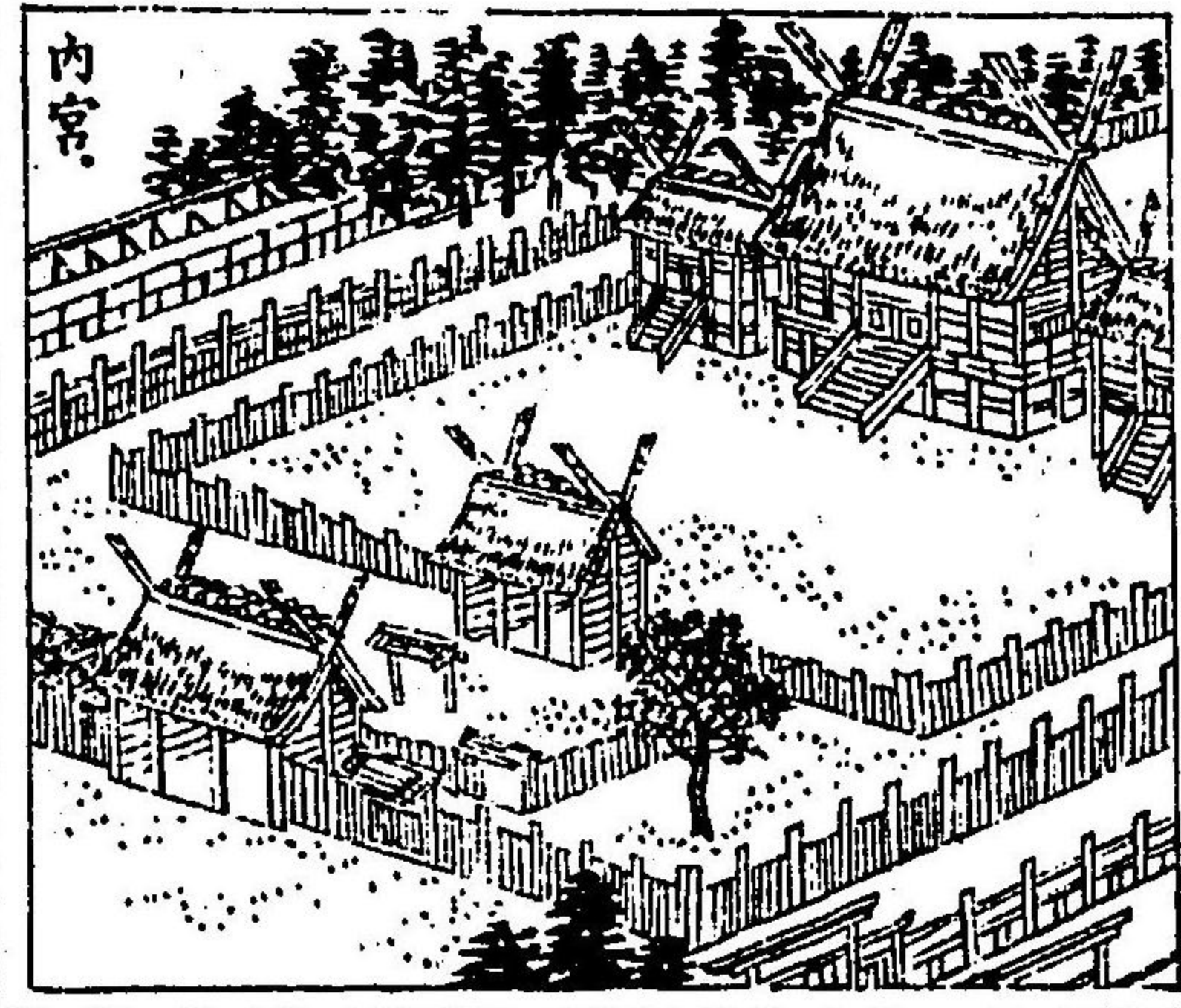
東海道の地圖
 日本里法輸尺
 一千八百二十七分の一

東海道位置の圖

東海道

東海道よを十五の國ありて、伊賀、甲斐の外をみ
お海よのぞみ、志摩、伊豆、安房の外を大てい、地味
こえて、作物よよくかあへり。
伊賀より甲斐、伊豆までの九の國を、四縣よわあ
る。伊賀、伊勢、志摩を三重縣よして、紀伊の東二
郡これよ屬し、縣廳を安濃津よあり、尾張、三河を
愛知縣よして、縣廳を名古屋よあり、遠江、駿河、伊
豆を静岡縣よして、縣廳を静岡よあり、甲斐を山
梨縣よして、縣廳を甲府よあり。

伊勢を茶と菜種とを多く産し、尾張、三河を木綿を多く作り出し、遠江、駿河を茶をつくることおびたし。その外、伊勢の産物よも萬古焼あり、尾張よも知多郡の酒、瀬戸村の瀬戸物、名古屋の七寶焼あり、駿河よも静岡の塗物、竹細工あり、甲斐の産物よもかひきと葡萄と最あらもる。伊勢の宇治よ、天照大神の宮ありて、これを内宮といひ、山田よ豊受の大神の宮ありて、これを



外宮といふ。あが國よて最うやまひ尊ぶ宮よして、諸方より参詣よ行くもの多し。



名古屋の城

名古屋を三都よつぎたる繁華ある都會よして、人の數十万人餘あり。この地をもと尾張の徳川家の城下よして、その

城をいま陸軍第三師團の兵營とあれり。この城のやぐらの屋のむねよ名高き金の志やちほこあり。

遠江の西南ある濱名の入海をもと湖水ありしがその出口の土むろし大津浪のときおちいりて今も入海とふれり。その口一里七町餘の間よ、ちろごろ長き堤をいくつもきづき堤と堤との間よ、長き橋をうけわとして往來を通ぜり。その橋の最長きものを六百間餘あり。又天龍川よも長さ六百間餘の橋かゝれり。三保が崎を駿河の海よつきいづること一里むありよして、多くの松生じ風景よき所あり。これを三保の松原といふ。

富士山を、日本第一の高山よして、高さを海面より一萬二千尺餘あり。

甲斐を、富士山の北よありて、四面山よかこまれ、北よも、國師が嶽、金峰山、八が嶽等つらあり、西よも、駒が嶽、白根山の山つゞきあり。いづれも高山よして、こよ、白根山を一萬二百尺餘あり。

富士山よおしよ三保の松原



伊豆の沖にある島々を伊豆の七島といふ。七島の最南ある八丈島を、東京の真南にあたり、この島よても、よき絹をおり出せ。八丈といへる絹の名も、この島よりいでたり。八丈島よりをるる南よありて、小笠原島あり。この島を、東京をさること凡二百四十六里、氣候甚あつくして、芭蕉、やし、志ゆるたこの木へご等の植物おひーげりあやうがくばうのぶすま、やぎ等のめづらき動物あり。

小笠原島の動植物

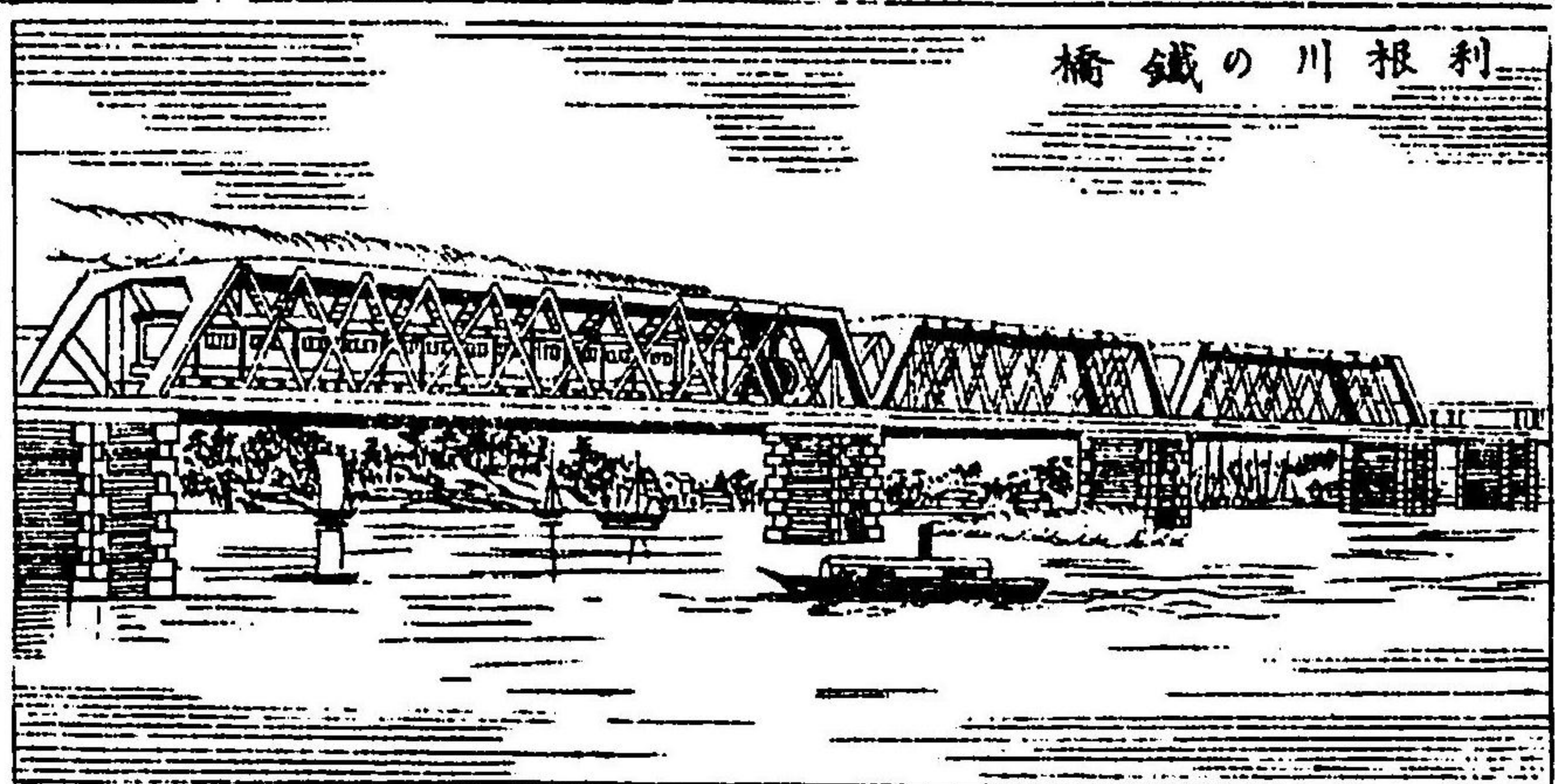


東海道のつゞき

相模、武藏、安房、上總、下總、常陸の六の國と東山道の
の上野、下野とをあわせて關東といふ。關東を
平地甚ひろく、北を上野、下野の中ほどより、南を
相模の東の海ぎしままで、東を下總の東より、西を
武藏の秩父山まで、たてよこ三四十里の間、田畑
野原つらふりて、いちぢるるゝき高低なく、米、麥、豆
類を産むること甚多し。

利根川を、上野の北よりいで、南東に流きて、鬼怒
川、印幡沼、霞が浦の水をあわせ、下總の銚子に至

利根川の鐵橋



りて、海に入る。下總、武藏の界
よて、この川の水わらむ、南に流
れて、東京の入海にゆるるを江戸
川といふ。利根川、江戸川を、川
をいひろく、流さゆるやのよ
て、蒸氣船のよひ、運漕に便利な
る川あり。

相模以下の六の國の地を、東京
府と神奈川、埼玉、千葉、茨城の四
縣とよて支配を、東京府を東

京十五區とそのまま六郡と伊豆の七島小笠原島を加へて支配し、神奈川縣廳を横濱ありて、武藏の南六郡と相模とを支配し、埼玉縣廳を浦和ありて、武藏の三分の二ほどを支配し、千葉縣廳を千葉ありて、安房、上總、下總を支配し、茨城縣廳を水戸ありて、常陸を支配す。ただ、下總の西北より利根川の北ある六郡を茨城縣に屬し、江戸川の西ある一郡を埼玉縣に屬せり。

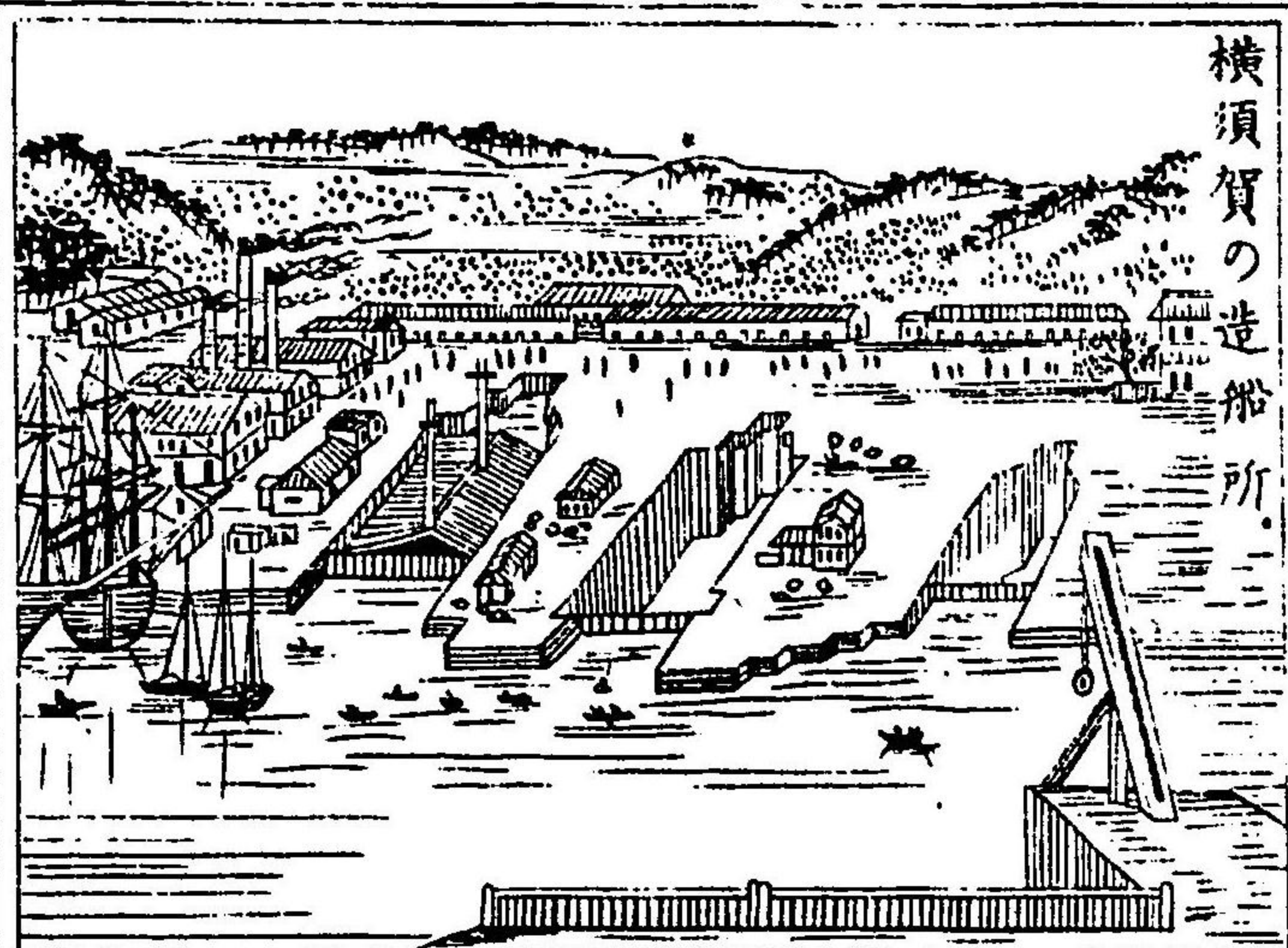
伊豆、相模の界にある箱根山を、東海道のけし

き峠より、山の上は蘆の湖あり、そのほとりの塔が島といへる半島は離宮あり。離宮を、後山をおひ前は湖をひらへ、西北の方を、なるるは富士山をのみ、閑静にしてよき景色あり。又箱根山中は、あまたの温泉あり、伊豆の熱海ともよみ、人の多く遊びゆく所あり。



鎌倉をむろし右大將頼朝卿の居りし地にて、今
よ多くの古跡あり。

横須賀の造船所



横須賀は海軍の鎮守府あり。
あまゝの軍艦つねにこの港
を出入す。又大なる造船所
ありて、軍艦、商船をつくり、又
を破損をつくろひ、工事甚盛
あり。
横濱を東京の南八里餘にあ
り。わが國にて最盛なる港

よして、人の數十二万人餘あり。神戸より船よて
横濱よ至るよも、大坂の入海、紀の海をいで、熊
野浦よまをり、遠州灘、相模灘をまぎて、東京の入
海よ入る。海上百六十五里餘あり。
東京を荒川の末ある隅田川よまをり、南を東
京の入海よのぞめり。この地を、もと江戸と稱
し、二百七十餘年の間、徳川將軍の幕府をおおれ
たる所ありしが、今上天皇おんみづゝら政をと
らせたまひてより、あらためて東京と稱し、こゝ
よ皇居をうつしたまへり。

東京を日本第一の大都
會ふして、ひろさを、たて
よこ各二里餘、人の數を
凡百四十萬人あり。皇城
を都會の中ほどあり
て、官廳、兵營、學校、會社等
の建物、高位貴人の家お
ど處々またてつらあり、
いづれもりつむあり。
町家を四方よ軒をあら

日本橋邊の圖



べ、市中の繁華あることいそんあゝあり。東京
も、二つの大ある鐵道のそとまる所よして、東海
道鐵道も、新橋より横濱、静岡、名古屋をへて、京都
大阪よ通じ、中山道鐵道も、上野より上野の高崎
をへて、前橋と横川とよ通ず。奥州鐵道も、中山
道鐵道の途中なる大宮よりそとまり、下野の宇
都宮、岩代の福島、陸前の仙臺をへて、陸中の盛岡
よ通ず。この外、新宿より八王子よ通ずる鐵道
あり。又市中の電話線と諸國よりあつまれる
電信線とを、さあがら蜘蛛のすををりくるごとし。

東京の製造物の中、盛ふるものを靴、西洋紙、摺附木あり。又むろしより名高きものを、浅草のり、時繪、錦繪あり。

九十九里の濱漁獵の圖



千葉縣を、三方海よのぞみ魚類、貝類のとり高きためて多き所あり。ことよ、上總、下總の東の濱ある九十九里といふ所を、鯛の獵場よして、そのとり高の多きことを、他の地方の分を盡く合せたるほどあり。この鯛を、魚油、志めあす、又を

ほしあるとあして諸方よ賣り出す。又野田、銚子の醤油、流山のみりんを、下總の産物よして、たごこ、こんよやくを、常陸の産物あり。下總を、至て平なる國よして、ひろき野原多し。その中小金が原を、開墾して畑をつくり、習志野を調練場とあり、取香牧と小間子牧とを、馬、羊等の牧場とあきり。

日本地理小誌卷の上終

巨野地理小誌

巻の上

中興堂

文部省檢定濟

那珂通世
秋山四郎

同編

卷上

日本地理小誌

東京書肆

中央堂發兌



明治二十年五月廿三日版權免許
全 年八月 出版
明治廿四年五月十二日訂正再版
明治廿四年五月十二日印刷

正價十八錢

編者

東京府平民 那珂通世
麹田中不春町十番地

編者

静岡縣士族 秋山四郎
四谷區愛住町七十六番地

柳新者
發行

中宮川保全堂
日本橋區通堤町八番地

發兌元

全區全町



賣捌 書舖

大坂心齋橋通北久堂寺町三

木

